

2008年 全修協 徳島環境学習セミナー

実施の概要

- 1 目的 修学旅行を通して、児童生徒の環境保全に対する思考力・判断力・実践力を育成するため、現地の人々と交流を図りながら、環境教育に資する指導内容・指導方法に関する研修会を実施する。
- 2 主催 財団法人 全国修学旅行研究協会
- 3 後援 徳島県、(財)徳島県観光協会、関東地区公立中学校修学旅行委員会
- 4 協力 全日本空輸(株)、近畿日本ツーリスト(株)
- 5 実施期日 平成20年8月18日(月)～20日(水) 3日間
- 6 参加人数 17名(東京都・神奈川県・千葉県の公立中学校教師、全修協)
- 7 実施箇所 徳島県:海陽町、牟岐町、美波町、三好市
- 8 講師 大神憲章氏(現牟岐町長、海蔵寺住職)
南 敏治氏(落合重要伝統建造物保存協会会長)
- 9 研修場所 海陽町:海蔵寺、観光ターミナル道の駅穴喰、まぜのおか、阿波海南文化村(カツオのたたき作り)、穴喰漁港より水床湾(打ち網体験)
牟岐橋・美波山河内地区(農業体験)
牟岐町:農業体験民泊
美波町:農業体験民泊
三好市:大歩危、小歩危、阿波おどり(三好市なでしこ連)、落合集落(ひしゃぎ竹/石積み体験)、かずら橋、かずら細工、案山子の里

セミナー概要 <一日目>

10:20頃高知竜馬空港に到着。一行は徳島県のバスに乗り土佐湾に面した国道55号線で室戸市方面に向かい、本日の目的地牟岐町へとスタートする。しばしガイドさんの話に耳を傾け日本で唯一、人名のついた空港であるという説明を最初に聞き、その後、高知県、徳島県の輩出した江戸末期から明治維新にかけて多くの有名人の話聞く。それはまさに圧巻という表現がぴったりのものである。台風のメッカということもあり、風雨に強いといわれる水切り瓦という独特の屋根のつくりも紹介される。

夏の真直中ということもあり、外気温が35度はあろうかという暑さであったが、以外にも関東とは異なり乾燥した感じを受け汗ばむ感じはしなかった。高速道路がなく、一般道を走ったが信号も少ないので、距離がわかれば到着時間もほぼ正確に推測できる。

途中、お遍路さんの姿も何度も見ることができる。札所間の距離が80キロ以上も離れたところもあり途中にはまったく民家もなく、人道りもなくなってしまうところもあり、修行の厳しさを目の当たりにする。年輩の方ばかりではなく若いお遍路さんの姿も多く目にする事ができた。1:00頃ホテルリヴィエラしきいで昼食となる。ここで始めて参加者の自己紹介をする。

牟岐町、海蔵寺にてセミナー

講師、牟岐町長 大神憲章氏

講演主題「二十三士と牟岐」

講師の先生は町長でもあり海蔵寺住職でもある。高校の校長を退職後、町長となる。話の中心は「土佐勤王党二十三士の脱藩」にまつわる話と、取調べの地となった牟岐での様子について話される。バスではほぼ同じ道中を説明を聞きながら海蔵寺に向かったのでセミナーでの話もわかりやすく、大変有意義な時間であった。

現在でも、この地においては『もてなし』の源流は脈々と流れているが、脱藩の志士に対するもてなしの心がそもそもの始まりのようである。現在は自然の豊かさと人情を売り物とした「南阿波よくばり体験」を実施しているところである。

牟岐橋・美波山河内地区農業体験・民泊

2～3名ずつに分かれて、それぞれの農家で農業体験を実施。畑作業、収穫、苦労話を聞く等様々な体験をする。必ずしも農業を専門とする方ばかりではなく、リタイアされた後に作物を作られたりしている方もいて、幅広い話題の中での話もあり大変有意義な経験であった。海がめの産卵場所に案内してくれたり、温泉に浸かって話しに花が咲く等の体験もあった。

*カヤック、雨天の場合の見学場所等の見学もする。

<二日目>

分宿場所より合流し、打ち網体験(宍喰漁協)

船3隻に分乗、2隻で網を仕掛け、1隻は海底の岩に棒で衝撃(ドンツキ)を与えて、魚群が網の方へ向かうよう追い込んでゆく。魚場を選定し、1回のうち網で大量の収穫があった。魚の種類は95%がカマスであった。約1時間ほどで終了したが、あまりの大漁に参加者一同大興奮、充実感を覚える。四国の松島に相応しく、リアス式海岸の美しさ、水質の素晴らしさを胸に深く刻むことができた。「阿波の南海岸ほど美しいものを見たことがない」～四国の旅(瀬戸内晴美)で書かれているのもうなずける。

まぜのおか公共施設に移動して、カツオのたたき作り食体験

カツオのたたきはどのように作られるものか興味深々な気持ちで参加。カツオをさばくところから薫を燃やして本格的に加熱する。講師の方は近所のお母さん方で、民泊をしたところのお母さんたちが多く参加されていた。手際の良さに驚かされたが、参加者を生徒に見立て、生徒たちに教えるのと同じ要領で行程が進んだ。

打ち網体験で獲ったカマスは早速刺身に、また塩焼きにしてこれも行程の中に入った。
自分たちで獲った魚、料理した魚を食卓に協力して並べ、食する最高の贅沢を味わうことができた。やはりこの充実感は体験してみても味わうことのできる本物の体験となった。





予定を30分オーバーして食体験も終了し徳島の北西部祖谷へと向かう。高速道路は徳島市まで行って徳島自動車道へと入る。徳島までは一般道で、徳島からは四国三郎吉野川と並行して吉野川の河口から西へと上流に向け上るように車を走らせ、井川池田へとバスを走らせる。甲子園で大活躍した池田高校を横に見ながらしばらくは土讃線と並行してバスを走らせ、途中土讃線に分かれていよいよ祖谷山深へところへと進む。途中エメラルドグリーンの水面とそそり立つ岩肌の大歩危、小歩危を車窓より見物する。

吉野川の支流祖谷川に沿ってどんどん渓谷は厳しくなる。深い谷底に清流の流れは正に絶景である。しばらくして目指す“かずら橋”に到着する。予想していたよりも周りの環境がかなり整備されていた。かずら橋へ向かう前に団体の集合場所、分宿の際の受け渡し場所等について見学し説明を受け、その後、かずら橋へと向かう。日本3大奇橋に相応しい雰囲気醸し出している。怖いもの見たさ、恐々渡る。足元も不安定、手すりもゆらゆら、スリル満点の橋である。シラクチカズラで作ったもので、今は安全を期して3年に1度架け替えを行っているとのことである。渡ってみた者でないとあのスリルは味わえないものである。国の重要有形民俗文化財に指定されているとのこと。

阿波踊り体験

ホテル秘境の湯に宿泊、三好市の「なでしこ連」による阿波踊り体験が行われる。一通り模範演技が行われ(解説入りで)、その後、参観者も参加しての阿波踊り体験を実施。本物の阿波踊りを真近にし、その迫力、躍動感、女性の優雅さにうっとり。単調なリズムとダイナミックな動きは正に一見に値する見事なものであった。徳島市で行われた阿波踊りはさぞかし人々に大きな感動を与え、魅了するものであるということは容易の想像できる。

<三日目>

ホテル秘境の湯から一路「落合集落」へ

「石積み体験とは何ぞや、ひしゃぎ竹体験とは何ぞや」、そんな気持ちで落合集落へ東祖谷にはバスが入ることができず、ワゴン車に分乗して向かう。道幅は狭くなり車も切り返しをやらなければ進めない所が何箇所かあった。集落を目の前にして「そらの郷」という意味が初めて理解できる。急斜面のはるか高いところに集落がある。あんな急斜面でどんな生活ができるのだろうか。驚きと共に不思議な思いがした。これこそ体験したものでないとわからないことが多々あるのではないか。そんな思いをしながら、セミナーに参加し、石積み体験、ひしゃぎ竹体験に参加する。

はじめに落合公民館で南 敏治会長から落合集落の概要についての説明を頂く。江戸中期から昭和初期に建てられた民家が急斜面に広がりこれまで見たことのない光景が広がっている。自分の想定をはるかに超えた佇まいに一様に驚きが隠せない。ここでも高齢化が進み、以前8000人も住んでいたが、現在では2000人程に減少、耕作放棄された農地が増加し、後継者問題が深刻になっている、という話を聞く。国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、補修工事等行われている。「ひしゃぎ竹、石積み体験」が行われる。

かずら細工

さらに東へと進みいやしの温泉郷へ入る。「いやしの温泉郷」で入浴、昼食を済ませ、最後の体験、かずら細工体験を実施する。山中にある葛を採って、葛を利用して籠を作る。時間の都合で、約一時間ほどで完成させる。普段は2～3時間はかかるかというものであったが、短時間であるだけにその集中力はさすがであった。この後、剣山など眺めながら、一路高松空港へと向かった。時間の都合で奥祖谷二重かずら橋は見学せず説明のみとなる。しかしながら、ここでの多くの貴重な体験は深く心に残るものであった。

ガイドさんの豊富な経験、絶妙な話術も大変有難かった。高松空港に到着後、ロビーで解散式を行い、羽田空港へと向かった。

3日間天候にも恵まれ、全工程を終了することができた。徳島県が市がそれぞれの町が心のこもった受入をしていただいたことに、深く感銘を受け、感謝の気持ちでいっぱいである。とりわけ、徳島県観光協会の松浦様を始め、南阿波の皆様、三好市観光課の山本様、地元の方のご協力には深く感謝申し上げたい。それぞれの地で観光資源への思いがひしひしと伝わる。

やはり、そこに行ってみて実際に行ってみないと、わからないことが沢山あるということを再認識させられた瞬間でもあった。

今回お世話になりました多くの皆様に深く深く感謝申し上げます。



